

たのしいあき いっぱい

令和4年10月25日(火)
13時20分～14時05分
男子6名 女子7名
計13名

本単元で育成する資質・能力

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」

1 単元について

このような単元です

○ 本単元は、学校の校庭探検や地域の公園に出かけるなど秋の自然と関わることを通して、身近な自然の四季による変化に気付いたり、自然の特徴に気付いたりする。1学期には、「なつがやってきた」という単元で夏の自然と関わる学習をしているため、夏との自然の変化を比べることができる。

また、秋の自然の特徴を活かし遊びを工夫して作り出し、地域の人(保育所)と交流することで自分の生活を楽しくしていく力をつけていける単元である。

このような児童です

○ 1学期に行った「なつがやってきた」という単元では、校庭や地域の公園に出かけ、夏の虫や植物探しをしている。また、水鉄砲や色水遊び、シャボン玉、泥遊びなどといった夏ならではの水遊びも行っている。

色水遊びでは、朝顔の量と水の量を考えて濃くするためにはどうしたらいいか考えたり、ペチュニアの花の色水を使ったり、夏の自然の中で工夫して遊んでいた。また、色水遊びで作った水で水鉄砲をするなど遊びを発展させている姿も見られた。

○ 地域との関わりでは、1学期に保育所からの招待で保育所に出向き、音戸の舟唄を見本として披露したり、保育所の先生が考えたゲームを一緒にしたりする交流をしている。

だからこのような授業をします

- ・ 第一次では、まず単元計画を立てる。このとき、「なつがやってきた」の単元計画を振り返ったり、保育園交流をしたことを思い出したりする。夏のとくと同じように校庭と地域の公園で秋の虫や植物を探す。そのときに、自然を見付けるだけでなく、夏と「おなじところ」「ちがうところ」を意識させるようにする。
- ・ 第二次では、自然の特徴を活かした遊びを楽しむ。このとき、五感を使って秋の自然のよさに気づけるようにする。
- ・ 第三次では、第二次までの振り返りの時間とし、見付けた秋についてタブレットを使ってまとめ、交流をする。
- ・ 第四次では、第二次で遊んだ自然の特徴を活かし、遊びを発展させ秋のおもちゃを作る。一緒に遊ぶ相手が保育園の子であるという相手意識をもち、おもちゃやルールを工夫を考えるようにする。
- ・ 第五次では、保育園の子を招待し、分かりやすく説明をしたり、一緒に遊んだりすることで、自分たちが作った秋のおもちゃを使って楽しく活動したことの達成感を持たせたい。

2 単元の目標

- 秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してついたり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季を変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。

(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力 地域の一員として関わる力
秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら、遊びを創りだし、自分の生活を楽しくしようとしている。

4 指導計画（全22時間）本時は14/22

次	時数	学習内容 【他教科との関連】	評価	
			評価規準	評価方法
一次 あきをさがそう (7)	1 6	課題の設定 「あき」を楽しむ単元計画をつくろう。 情報収集 校庭や地域の公園で秋を探そう。	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然と関わる活動と、そこから遊びに使う物を作る計画を立てている。 夏と比べて校庭や地域の公園の自然に違いがあることに気付いている。 	【知識・技能】 発言 ワークシート
二次 はっぱや実であそぼう (4)	2 2	整理・分析 秋の特徴を見付けよう。 表現 葉っぱや実を使って遊ぼう。 【国語科】なにに見えるかな	<ul style="list-style-type: none"> 夏と秋の自然ではどんな違いがあるのか、色や形などの視点から特徴を見付けている。 友達と一緒に秋の自然を使って遊びを楽しんでいる。 	【思考・判断・表現】 発言 ワークシート 【協働的に関わる力】 行動観察 発言 ふりかえりシート
三次 あきのことをつたえよう (1)	1	まとめ・表現 「あき」で楽しかったことをまとめて、伝えよう。 ・紙芝居 ・クイズ 【国語科】はっけんしたよ	<ul style="list-style-type: none"> 二次までの活動を振り返り、自分なりの「秋」の特徴をまとめ発表している。 	【思考・判断・表現】 まとめた成果物 発言

<p>四次 あきのおもちゃをつくろう(6)</p>	<p>2</p>	<p>表現 秋の工作をしよう。(本時) 【特別な教科 道德】はなばあちゃんがわらった</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識をもちながら、秋の自然物を使ったおもちゃを工夫しながら創っている。 	<p>【思考・判断・表現】 行動観察 つくったおもちゃ</p>
	<p>4</p>	<p>課題設定 保育園の子も楽しめる遊びにしよう。 表現 おもちゃをつくろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生のアドバイスを受けながら、失敗しても工夫しておもちゃを完成させている。 	<p>【協働的に関わる力】 行動観察 発言</p>
<p>五次 いっしょにあそぼう(4)</p>	<p>2</p>	<p>表現 秋のおもちゃ大会を開こう。 【国語科】すきな きょうかは なあに</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の子に分かるように説明をして、自分がつくったおもちゃで楽しんで遊んでいる。 	<p>【地域の一員として関わる力】 行動観察 発言</p>
	<p>2</p>	<p>まとめ・振り返り 楽しい「あき」をふりかえろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然のものからおもちゃを創ったりする楽しさや自然の不思議さに気付いている。 	<p>【知識・技能】 ふりかえりシート</p>

5 本時の学習

目標 : 秋の自然物を使い, 工夫しておもちゃづくりをすることができる。

評価規準: 秋の自然物を使って, 楽しめる工夫をしておもちゃづくりをしている。

【思考力・判断力・表現力】

主な学習活動	○発問 ◎主発問 ◇指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 めあて・課題の設定		
○ めあてを確認する。	○ 今作っているおもちゃを, どんなおもちゃにしたいですか。 ◇ 単元計画のどの位置にあるのかを共通認識する。 ◇ 前時で作りはじめた秋のおもちゃを「もっと楽しく」することを確認する。	
本時のめあて おもちゃを「もっと楽しく」くふうしてつくろう。		
2 問題解決をする。		
○ 個人で考える。 ○ 試したり, 友達と相談をしながらおもちゃを作る。	○ どうしたらもっと楽しくなりそうですか。 ◇ ワークシートに書くことで, 一人一人が自分の思いを確かめられるようにする。 ◇ 決められない子には, 途中で替えてもいいことを伝え, 安心して考えられるようにする。また, 今まで見つけた秋や前時につくったおもちゃを実際に触って確かめるよう促す。 ◇ ロイロノートに製作途中のおもちゃの写真を提出しておくことで, 似ている友達と話したり相談したりできるようにする。 ◇ 試すコーナーを作り, 試しながら工夫できそうなところを見つけられるようにする。 ◇ 比べたり, 見通しながら工夫したりしている児童にはその都度評価をしていく。 ◎ もっと楽しくするために, なにかを教えてください。	【思考力・判断力・表現力】 行動観察 ワークシート 発言 秋の自然物を使って, 楽しめる工夫をしておもちゃづくりをしている。
3 学習のまとめ・振り返りをする。		
○ まとめをする。		
まとめ かず・大きさ・かたちをかえるともっとたのしくなった。		
○ ふりえかえりをする。	◇ 具体的に, 何の数や大きさ, 形を変えたのかを問い, 全体でイメージを共有する。 ○ `たかつな`でふりかえりましょう。	

予想されるふりかえり例	質が高まったふりかえり例
・ともだちといっしょにつくってたのしかった。 ・つくりたいものがつくれた。	・マスカラをつかって, <u>どんぐりの数</u> を増やすとあきのガラガラという音がきこえるようにできた。 ・どんぐりは, <u>〇〇</u> をつかうとよくまわった。 ・あきのはっぱのいろをつかって, 赤だけじゃなく黄色もつかってきれいに見えるようにした。